

キーワード	支えあい体制づくり、住民力・地域力・介護力、発見・継続・形成、地域福祉推進員、介護サポーター
-------	--

住民力・地域力・介護力を総動員した地域包括ケア体制づくり

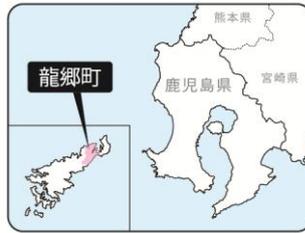
鹿児島県 龍郷町

【この事例の特徴】

支えあいマップ作りを通して地域の現状を把握・共有し、そのうえで住民・専門機関・行政が協働して人材の発見と連携、取り組みの発見と継続、地域力の発見と形成に取り組んでいる。地域の人材として、困りごとの発見や見守りをする「地域福祉推進員」、見守りを中心に行う「見守り応援隊」、地域包括支援センターに登録したボランティアである「介護サポーター」などを養成している。

地域概要

総人口:	6,066 人
65 歳以上人口:	1,818 人(30.0%)
75 歳以上人口:	1,083 人(17.9%)
要介護要支援認定者数:	316 人(17.4%)
地域包括支援センター数:	1 ヶ所
第5期介護保険料:	4,500 円



背景・経緯

【背景】

- 本町では、もともと地域住民が集う場所(ガジュマルの木の下や海辺など)が集落の中にあり、高齢者や地域住民が集う環境があった。しかし、公的サービスの導入により、徐々に集落からそのような場所が消えつつある。

【経緯】

- 住民の自分の町で住み続けたいという声を踏まえ、平成 20 年度から自助・互助への支援(地域支え合いネットワークづくり)の必要性を感じ、地域で主体的に活動できる見守り応援団の養成を開始した。当初、6 集落で活動を始めたが、なかなか進まず、平成 23 年度より、新たな取り組みとして地域支え合いマップづくりを手法として開始した。住民自身が支援の現状に気づき、集落の見守りでの課題や今後どのような取り組みが必要かを検討し、新たな支え合いの仕組みや住民福祉の発見ができ、活動化されていった。
- また、平成 23 年度から住民支援に関わる町内の関係機関(保健・医療・介護・障害等)に呼びかけ本町の地域資源を理解・共有し今後の地域包括ケア体制づくりのためのチームケア体制づくりについて検討、事例検証等を加え、体制図の作成から具体的な実施計画づくりを行い、地域への周知にも取り組み、地域住民の理解を深めると同時に自助・互助・共助に関わる人の連携を図った。

- **予算等:** [町]平成 25 年度 地域支援事業(国:25% 県 12.5% 市町村 12.5%) 予算額:50 千円
 [国・都道府県]平成 23 年度地域支え合い体制づくり事業費 1,816 千円
 [国・都道府県]平成 24 年度地域支え合い体制づくり事業費 999 千円

取り組み内容と方法

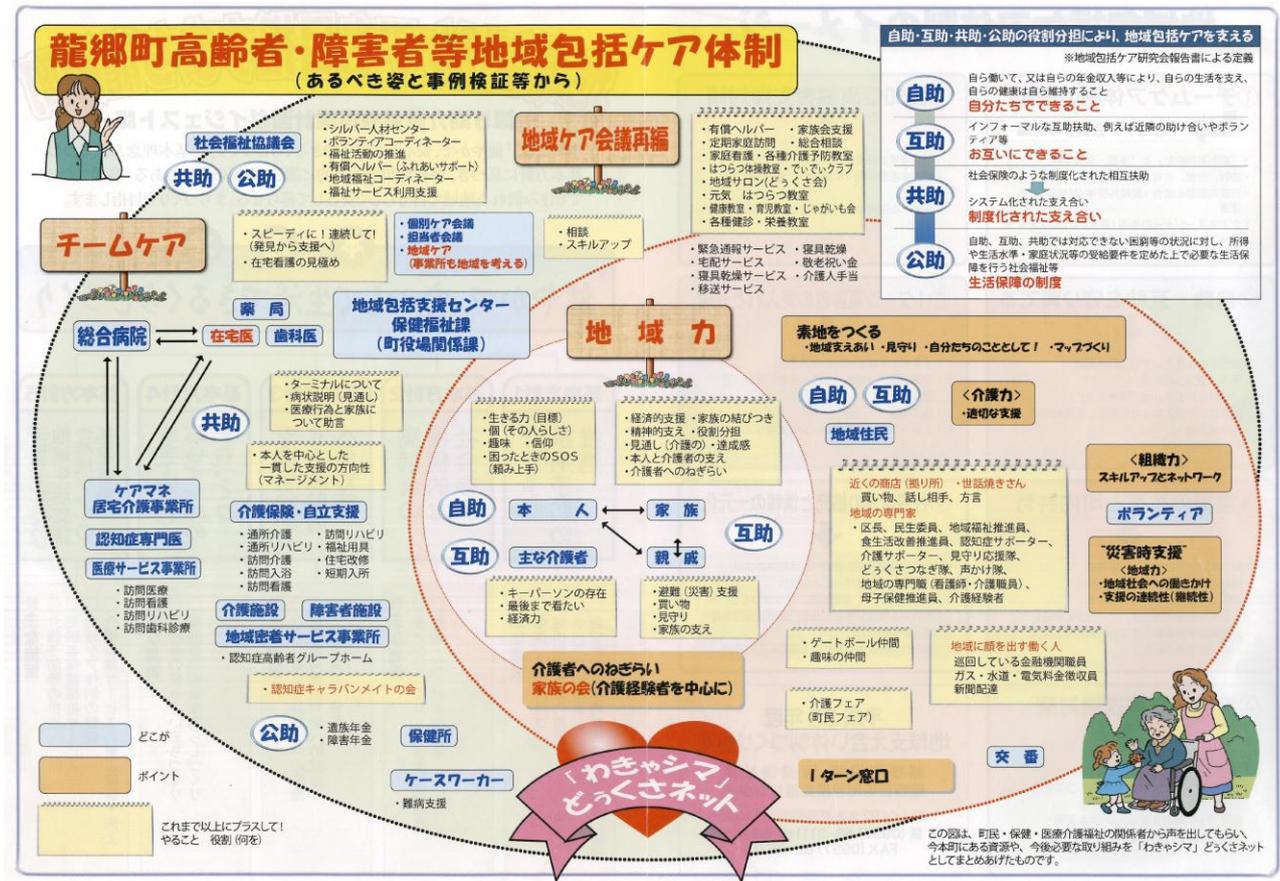
【わらい】

- 地域にある資源(人・物等)を再度見直し、自助・互助・共助・公助に携わる人々がそれぞれに力を向上させ、連携できることにより、住み馴れたところで自分らしく暮らし続けられるための地域づくり
- 自助・互助・共助・公助のそれぞれの取り組みの中で、「人と人がつながる(人材の発見と連携)」、「点と点がつながる(取り組みの発見と継続)」、「行政と民間がつながる(地域力の発見と形成)」ことで、『気づき～つながり～見守り・支え合う体制』が、地域の姿として誰の目にも見えてくるのが重要であると考えている。
- 住民一人一人が、この龍郷で、どのような形で生活していきたいか自己決定でき、その生き方が選択できる地域づくりをめざしている。

【実施主体】

- 事業全体は龍郷町
- 取り組みは、地域住民主体

【取り組み内容】



1. 地域ケアの向上

(1) 人材育成・資質の向上(人と人がつながっていく)

● 地域の専門家の養成 (地域からの仕組みづくり)

- ◇ 地域福祉推進員(地域の世話やきさん):見守りや困りごとの発見と支援(町内 25 名、5 集落)
- ◇ 見守り応援隊:見守りを中心に行い、地域の情報を行政につなぐ(10 集落で活動中)
- ◇ 介護サポーター:ボランティア活動の担い手として地域包括支援センターに登録
(マッサージ・散髪・見守り・草取り・買い物支援等)
- ◇ 有償ヘルパー:介護保険以外での介助や家事等の手伝い
- ◇ 地域福祉コーディネーター:地域福祉推進員の相談役(町内 3 名)



地域の困りごとはないか？マップで確認！！

集落の地図を見ながら考えます

● 多職種との連携(支援者への働きかけ)

- ◇ 地域ケア検討会や地域包括ケア会議の開催(多職種との連携)
- ◇ 定期的な介護支援専門員や介護保険事業所の研修会開催(施設や介護・医療スタッフとの連携)
- ◇ どうくさ会を活用した様々な学習会(専門職・地域の人との連携)

(2) 普及啓発(いろいろな場面で伝えていくことの大切さ)

- ◇ ホームページ(どうくさネット)での活動紹介や情報提供・地域包括ケア体制づくり(ケア検討会)
- ◇ シンポジウムの開催・健康祭の開催・パンフレットの配布、広報誌掲載、無線放送

2. 予防活動・医療との連携 (いろいろな活動の中から発見しつながっていく)

(1) 各種介護予防のための教室等の開催:一次予防・二次予防や高齢者教室

- ◇ 地域サロン(どうくさ会)16 集落(うち 5 集落自主活動)、でいでの教室、元気はつらつ教室
- ◇ 認知症研修会(認知症サポーター養成講座)、口腔・栄養改善のための教室
- ◇ 元気度アップポイント事業:手押し車の歩こう会等イベント参加
町等が実施する介護予防等の活動、ボランティア活動に参加したポイントを商品券に交換できる
⇒介護保険料徴収率アップ、介護保険からの卒業生

(2) 介護者支援

- ◇ 龍郷介護家族会:在宅医の働きかけで、看取りへの援助やボランティアの拡大

(3) 在宅医との連携

- ◇ ケア会議(事例検討会、事例検証会)における連携
- ◇ 訪問看護・介護支援専門員との調整会議の開催

◇ 元気高齢者家庭訪問における医師・理学療法士・訪問看護師との連携

3. 地域ネットワークの構築(つながりを形にしていく)

(1) 地域単位での活動

◇ 地域サロンの推進(集落でのお茶のみ場の拡大など)

(2) 要介護者マップ・システムの活用や台帳の整備

◇ 高齢者家庭訪問・相談窓口の強化

取り組みの成果と課題

【成果】

- 高齢化は進む中で要介護認定者が減少している。
- 集落での活動が、近隣集落へ連鎖している(支え合い活動や、地域の自主運営サロン数の増加)。
- 見守りの活動内容が拡大・充実(見守りのみではなく、豊かな生活の視点の普及)。
- 地域の専門家が、増えてきている(地域福祉推進員の普及)。

【課題】

- 各集落での取り組みを、町全体の地域で、それぞれの集落の特性を生かしながら拡大していくことで、自助力・互助力の向上を継続して図る必要がある。
- 共助(支援者側)からの地域で生活をしている住民との連携を強化し、子どもや次世代を担う若者への参加を育て、総合的な地域包括ケアの体制づくりの強化が必要である。

参考 URL、連絡先

- 龍郷町 保健福祉課 地域包括支援センター
http://www.town.tatsugo.lg.jp/com_general_support/3_cooperation/2_com_general_support_center/
0997-62-3111
- 龍郷町 保健福祉課 地域包括支援センター
http://www.town.tatsugo.lg.jp/com_general_support/